

平成27年度 滋賀の文化財講座

打出のコツチ

専門の文化財担当職員と学芸員がわかりやすく解説いたします。

第1回 5月21日(木)

新たな県民のたから

—平成26年度滋賀県新指定文化財説明会—

< 講師 >

県教委文化財保護課各担当



第2回 6月18日(木)

受け継がれゆくいにしへの美

—よみがえった琵琶湖文化館收藏品—

< 講師 >

渡邊 勇祐
(滋賀県立琵琶湖文化館)



第3回 7月16日(木)

**魅力あふれる滋賀の
近代建築と「滋賀県庁舎本館」(仮題)**

< 講師 >

池野 保
(県教委文化財保護課)



琵琶湖文化館蔵 友禅蹴鞠図 (部分)

第4回 8月20日(木)

山から下りた梵鐘

—菅山寺梵鐘の移動と保存修理—

< 講師 >

古川 史隆
(県教委文化財保護課)



第5回 9月10日(木)

見立絵

—江戸絵画の楽しみ方—

< 講師 >

上野 良信
(滋賀県立琵琶湖文化館)

※ 都合により内容が変更となる場合がございます。

【時 間】 13時30分～15時 (受付: 13時15分から)

【会 場】 コラボしが21 3階 大会議室
(滋賀県大津市打出浜2-1)

【募集人数】 200名

【受講料】 無料 (事前予約制・当日参加も可)

全5回

主催: 滋賀県教育委員会(主管: 文化財保護課)
滋賀県立琵琶湖文化館
後援: 滋賀県文化財保護連盟
公益社団法人びわこビジターズビューロー

【参加のご予約・お問い合わせ】

滋賀県立
琵琶湖文化館

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先
TEL 077-522-8179 FAX 077-522-9634
E-mail biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp

平成27年度 全5回

滋賀の文化財講座

打出のコツチ

滋賀県には国宝や重要文化財を含む多種多様な文化財が所在しています。滋賀県教育委員会と琵琶湖文化館ではこれらの文化財を保護、活用するさまざまな取り組みを行っています。

本事業はこれまで一般に知られてこなかった文化財調査や修理事業の実際、保存上の知識などについて、行政と博物館の協働のもと、具体的な最新の情報を県民に向けて発信していこうとするものです。

第1回

平成27年5月21日(木)

新たな県民のたから

— 平成26年度滋賀県新指定文化財説明会 —

滋賀県教育委員会では平成26年度に新たに7件（建造物2件、美術工芸品4件、名勝1件）を文化財に指定しました。本講座では新たに「県民のたから」となった7件の新指定文化財を、滋賀県教育委員会文化財保護課各部門の専門職員がわかりやすく紹介します。また、滋賀県で初めて重要有形民俗文化財に指定された近江甲賀前挽鋸製造用具および製品についても合わせて紹介します。

第2回

平成27年6月18日(木)

受け継がれゆく いにしえの美

— よみがえった琵琶湖文化館収蔵品 —

琵琶湖文化館には仏像や仏画、仏具といった仏教美術の優品はもとより、近世絵画の作品も数多く収蔵しています。しかし、その中には損傷が著しく、展示することが困難であった作品も少なくありません。

そこで平成26年度には「マザーレイク滋賀応援基金」（ふるさと納税）の制度によって、月岡雪鼎（1710～1786）や紀樞亭（1734～1810）ほか近世絵画の作品を中心に修復・再生し、さらに各作品の修理工程の紹介を交えた展覧会を開催しました。

本講座では、修復した作品の概要を紹介するとともに博物館の重要な仕事である文化財の修理と展示公開について、前年度の琵琶湖文化館の活動からお話します。

第3回

平成27年7月16日(木)

魅力あふれる滋賀の近代建築と「滋賀県庁舎本館」（仮題）

滋賀の近代建築は魅力にあふれています。学校、教会、図書館、鉄道建造物など、県内各地で近代化を象徴する「モダン建築」が次々と建設され、現在も地域の宝として大切に保存されています。その集大成というべき存在が、平成26年12月19日に国登録有形文化財となった「滋賀県庁舎本館」です。日中戦争の影響による鉄材統制を克服して建てられ、戦前期最後の大建築である県庁舎建設の経緯と建築史上の位置付けについて、単行本『滋賀県庁舎本館』の著者でもある講師が、わかりやすく語ります。

第4回

平成27年8月20日(木)

山から下りた梵鐘

— 菅山寺梵鐘の移動と保存修理 —

湖北地方余呉の大箕山中に伽藍を構える菅山寺は、奈良時代創建と伝えられる古刹で、中世には大いに栄えました。当寺の梵鐘は、鎌倉時代の建治3年（1277）製作で、県内に残る在銘の梵鐘では2番目に古いものです。長年厳しい自然環境下に置かれていたため、梵鐘の全面が錆で覆われていたため、平成26年度に国庫補助による保存修理事業を実施しました。

本講座では、梵鐘をほぼ一週間かけて山から下ろした作業の様子や、保存修理事業の概要を紹介するとともに、梵鐘の工芸史的な位置づけについて解説します。

第5回

平成27年9月10日(木)

見立絵

— 江戸絵画の楽しみ方 —

「見立絵」とは、連想ゲームのように画中の題材から別のイメージを連想して楽しむ知的な趣向の絵のことをいいます。「美人画」や「風景画」など、何気なく目にしてはいるモチーフの中にも、実はちょっとした「謎掛け」が仕掛けられていることが少なくありません。例えば落語家が扇子をくわえてキセルに見せるようなものです。同じ題材でも作者によって、「謎掛け」の仕方が違っていたりするのも「見立絵」の面白さです。本講座では琵琶湖文化館の収蔵品を中心に、江戸時代から現代に至るまで様々な分野の「見立絵」により、画中に隠された意味や関係性を読み解くことによって、「一歩深い」絵の楽しみ方を紹介します。

※ 日時・タイトル・講師および内容の一部について、都合により変更となる場合がございます。最新の情報につきましては逐次報道発表するとともに、滋賀県立琵琶湖文化館ホームページ (<http://www.biwakobunkakan.jp>) にて掲載しますので、直前にご確認のうえ、参加いただきますようお願い申し上げます。